

三分出處了諸葛已矣夫一身入洛分賞勉
安在哉心師質高而無素立名志仰魯連
分遂之釋難才讀書無功分操學三十年減
賦失計分猛氣壯一回人機狂頑分御黨衆
不容分許君國分死生君久齊至誠不動分
自古未之有古人難及分聖賢散逸傳
予為人書以發化七通今已取之實後
以見龜鳴時賓御於最舊其可辭分將
卷之四十一 四 龜鳴時賓御於最舊其可辭分將



吉田松陰自贊肖像(中谷本)

県立山口博物館所蔵 幕末維新資料ガイド②

県立山口博物館では、1912(明治45)年の開館以来、幕末維新関係資料の収集に努め、現在約2100点の書画や文書、道具等を所蔵しています。シリーズで代表的な資料を紹介する2回目は吉田松陰を特集します。

色、1幅



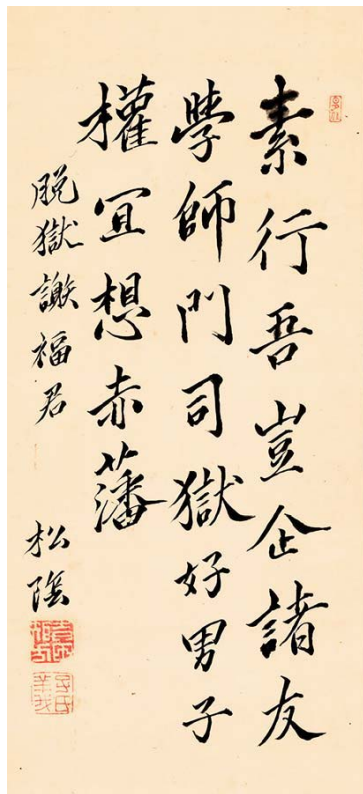
①吉田松陰自贊肖像 (松浦松洞筆、紙本着)

「ほっとやまはく」
タイム⑦

1859(安政6)年5月、江戸護送の幕命を受けた松陰が、旅立つ前に吉田家と実家の杉家のほか、門下生の品川弥二郎、久坂玄瑞、岡部富太郎、中谷正亮の4人に、形見として与えたものです。本図は、このうち、中谷に与えた1幅です。自贊肖像の作成を発案

たが、旧知の中谷の懇願に応じたようです。時あたかも松陰が江戸へ旅立つ前日の夕方、松陰が萩で書いた最後の文章になりました。構図は、羽織をまとい脇差しを差して正座し、右手で書物をめくる姿です。これは、中谷本、杉家本、品川本の共通しており、松陰の肖像画としてもっとも見慣れたスタイルとなっています。ちなみに、肖像の右下に絵師松浦の落款(「松洞」「聴鶴」)があります。自贊肖像の中で、松洞の落款があるのは本図のみです。

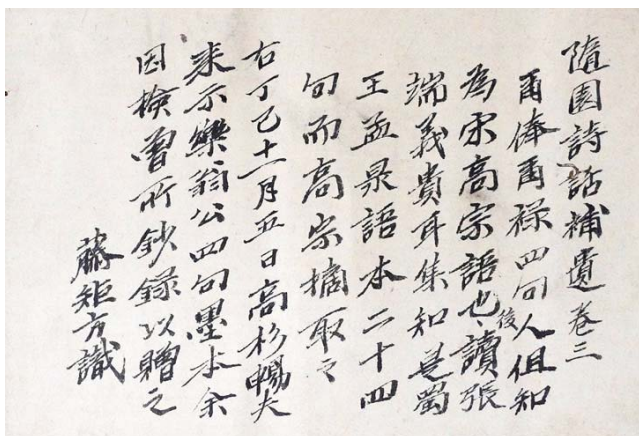
吉田松陰詩書 贈福川犀之助



②吉田松陰詩書(贈福川犀之助 安政6年、紙本墨書、1幅)

1859年5月24日、江戸護送を翌日に控えた松陰は、野山獄の司獄・福川犀之助(さいのすけ)の独断で出獄を許され、杉家の家族たちと決別することができました。本書は、松陰が福川の厚遇に感謝して贈った詩幅です。松陰より4歳年下の福川は、松陰の人物を崇拜し、外部と書信を交わすことを黙認するなど多くの便宜を図っていました。ちなみに、松陰は別れに際して肖像の賛も

(印)
素行吾豈企、諸友
學師門、司獄好男子、
權宜想赤藩
脱獄謝福君 松陰(印)(印)



隨園詩話補遺 卷三

書き贈っています(吉田松陰自贊(福川本)「萩博物館蔵」)。松陰が、家族、門下生以外に賛を書き与えた人物は、福川ただ一人です。

③隨園詩話補遺 卷三(安政4年、吉田松陰筆、1幅)

1857(安政4)年11月5日、松陰が高杉晋作に書き与えたものです。同日は、杉家の宅地内にある小舎を

▽次回は30日です。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館(祝日の場合は翌日)。最新情報はホームページで。

